

[質疑応答・総合討論]

## 大震災を教訓に、相互扶助の精神に基づき 地域再生を如何にすすめていくか

【コーディネート】 松岡 公明（JC 総研常務理事）

【コメント】 黒澤賢治（JA-IT 研究会副代表委員）／仲野隆三（JA-IT 研究会副代表委員）

質疑応答では、関谷先生と 3 JA の代表者に様々な質問が寄せられました。まず、JA 新ふくしまの菅野専務にさくらんぼ出荷制限の可能性について質問がありました。検査によって基準内であることが明らかになったので、通常出荷になったが、基準値を上回った場合、出荷制限が発動するかの心配を常に抱えているとの回答。また、質問を受けた関谷准教授は、原子力損害賠償対象の拡大、風評被害への評価について、意見を述べました。

総合討論では、JA 仙台の鈴木常務は、既存の物流システムは基本的に札幌、東京と仙台を中心とし

ているが、震災によって東北近隣県における物流基地構築の必要性を痛感したと述べました。また、JA-IT 研究会副代表黒澤氏が、被災地の支援に実際に取り組んだ経験を踏まえて、「フードライフライン」構築と被災地 JA・JA グループをバックアップする全国 JA の取組対応が重要であることを指摘しました。最後に、JA 富里市仲野常務が風評被害下における農畜産物販売の実態を踏まえ、今後の対応策を提案しました。その他にも、多数の参加者が発言し、熱く議論を展開しました。